# 機能設定を管理します
## Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/config/concept_manage_feature_settings.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

# 目次


機能設定を管理します . . . 1
- Active IQ Unified Manager の機能設定について . . . 1
- Active IQ Unified Manager でポリシーベースのストレージ管理を有効にする . . . 1
- Active IQ Unified Manager の API Gateway 機能について . . . 2
- Active IQ Unified Manager で非アクティブタイムアウトを指定する . . . 2
- Active IQ Unified Manager で Active IQ ポータルイベントを有効にする . . . 3
- Active IQ Unified Manager でコンプライアンスのためのセキュリティ設定を有効化および無効化する . . . 3
  - セキュリティ設定のカスタマイズ . . . 3
  - AutoSupportと認証設定のカスタマイズ . . . 4
- Active IQ Unified Manager でのスクリプトのアップロードの有効化および無効化 . . . 4
- Active IQ Unified Manager にログインバナーを追加する . . . 5

# 機能設定を管理します

## Active IQ Unified Manager の機能設定について

[機能設定]ページで、Active IQ Unified Managerの特定の機能を有効または無効にできます。ポリシーに基づいたストレージ オブジェクトの作成と管理、APIゲートウェイとログイン バナーの有効化、アラート管理用スクリプトのアップロード、非アクティブ時間に基づくWeb UIセッションのタイムアウト、Active IQプラットフォーム イベントの受信停止などが含まれます。

[機能設定]ページは、アプリケーション管理者ロールが割り当てられたユーザだけが使用できます。

スクリプトのアップロードに関する情報については、"スクリプト アップロードの有効化と無効化"を参照してください。

## Active IQ Unified Manager でポリシーベースのストレージ管理を有効にする

「ポリシーベースのストレージ管理」オプションを使用すると、サービスレベル目標（SLO）に基づいてストレージを管理できます。このオプションはデフォルトで有効になっています。

この機能をアクティブ化すると、Active IQ Unified Managerインスタンスに追加されるONTAPクラスタのストレージ ワークロードをプロビジョニングし、割り当てられたパフォーマンス サービス レベルとストレージ効率化ポリシーに基づいてワークロードを管理できます。

この機能は、「一般」>「機能設定」>「ポリシーベースのストレージ管理」から有効または無効にすることができます。この機能を有効にすると、以下のページが操作および監視に利用可能になります。

- [プロビジョニング]ページ（ストレージ ワークロードのプロビジョニング）
- ポリシー > パフォーマンスサービスレベル
- ポリシー > ストレージ効率
- クラスター設定ページの「パフォーマンスサービスレベル別に管理されるワークロード」列
- ダッシュボードのワークロードパフォーマンスパネル

これらの画面を使用して、パフォーマンスサービスレベルとストレージ効率ポリシーを作成したり、ストレージワークロードをプロビジョニングしたりできます。割り当てられたパフォーマンスサービスレベルに準拠しているストレージワークロードだけでなく、準拠していないワークロードも監視できます。ワークロードパフォーマンスおよびワークロード IOPS パネルを使用すると、データセンター全体のクラスタにプロビジョニングされたストレージワークロードに基づいて、クラスタの総容量、利用可能容量、使用容量、およびパフォーマンス（IOPS）を評価できます。

この機能を有効化すると、メニューバー > ヘルプボタン > **API**ドキュメント > *ストレージプロバイダー*カテゴリからUnified Manager REST APIを実行して、これらの機能の一部を実行できます。または、ホスト名またはIPアドレスを入力し、https://<hostname>/docs/api/ という形式のURLでREST APIページにアクセスする

こともできます。

API の詳細については、"Active IQ Unified Manager REST APIでの作業の開始"を参照してください。

# Active IQ Unified Manager の API Gateway 機能について

API Gateway機能を使用すると、Active IQ Unified Manager は単一のコントロールプレーンとして機能し、複数の ONTAP クラスタに個別にログインすることなく管理できます。

この機能は、Unified Manager に初めてログインした際に表示される設定ページから有効にできます。または、**General** > **Feature Settings** > **API Gateway** からこの機能を有効または無効にすることもできます。

Unified Manager REST API は ONTAP REST API とは異なり、ONTAP REST API のすべての機能が Unified Manager REST API を使用して利用できるわけではありません。ただし、Unified Manager に公開されていない特定の機能を管理するために ONTAP API にアクセスする特定のビジネス要件がある場合は、API Gateway 機能を有効にして ONTAP API を実行できます。ゲートウェイはプロキシとして機能し、ONTAP API と同じ形式でヘッダーおよびボディのリクエストを維持しながら API リクエストをトンネリングします。Unified Manager の認証情報を使用して特定の API を実行し、個々のクラスタ認証情報を渡すことなく ONTAP クラスタにアクセスして管理できます。Unified Manager は、お客様の Unified Manager インスタンスで管理されている ONTAP クラスタ全体で API を実行するための単一の管理ポイントとして機能します。API から返されるレスポンスは、ONTAP から直接実行されたそれぞれの ONTAP REST API から返されるレスポンスと同じです。

この機能を有効にすると、メニューバー > ヘルプボタン > **API**ドキュメント > *ゲートウェイ*カテゴリからUnified Manager REST APIを実行できるようになります。または、ホスト名または IP アドレスと URL を入力して、次の形式で REST API ページにアクセスすることもできます `https://<hostname>/docs/api/`

API の詳細については、"Active IQ Unified Manager REST APIでの作業の開始"を参照してください。

# Active IQ Unified Manager で非アクティブタイムアウトを指定する

Active IQ Unified Manager の非アクティブタイムアウト値を指定できます。指定された時間操作がないと、アプリケーションは自動的にログアウトされます。このオプションはデフォルトで有効になっています。

この機能は、「一般」＞「機能設定」＞「非アクティブタイムアウト」から無効化したり、時間を変更したりできます。この機能を有効にしたら、「ログアウトまでの時間（分）」フィールドに、操作がない状態が続くとシステムが自動的にログアウトする時間制限を指定してください。デフォルト値は4320分（72時間）です。

> このオプションは、Security Assertion Markup Language（SAML）認証を有効にしている場合は使用できません。

# Active IQ Unified Manager で Active IQ ポータルイベントを有効にする

Active IQ ポータルイベントを有効にするか無効にするかを指定できます。この設定により、Active IQ ポータルがシステム構成、ケーブル配線などに関する追加イベントを検出して表示できるようになります。このオプションはデフォルトで有効になっています。

この機能を有効にすると、Active IQ Unified Manager は Active IQ ポータルで検出されたイベントを表示します。これらのイベントは、監視対象のすべてのストレージシステムから生成された AutoSupport メッセージに対して一連のルールを実行することによって作成されます。これらのイベントは、他の Unified Manager イベントとは異なり、システム構成、ケーブル配線、ベストプラクティス、および可用性の問題に関連するインシデントやリスクを特定します。

この機能は、**General** > **Feature Settings** > **Active IQ Portal Events** から有効化または無効化できます。外部のネットワーク アクセスがないサイトでは、**Storage Management** > **Event Setup** > **Upload Rules** からルールを手動でアップロードする必要があります。

この機能はデフォルトで有効になっています。この機能を無効にすると、Active IQ のイベントが Unified Manager 上で検出または表示されなくなります。無効になっている場合にこの機能を有効にすると、Unified Manager は、そのクラスターのタイムゾーンにおける事前定義された時刻（00:15）に、クラスター上の Active IQ イベントを受信できるようになります。

# Active IQ Unified Manager でコンプライアンスのためのセキュリティ設定を有効化および無効化する

機能設定ページの*セキュリティダッシュボード*パネルにある*カスタマイズ*ボタンを使用すると、Unified Managerのコンプライアンス監視に関するセキュリティパラメータを有効または無効にすることができます。

このページから有効または無効にする設定は、Unified Manager上のクラスターおよびストレージVMの全体的なコンプライアンス状態を制御します。選択内容に基づいて、対応する列がクラスターインベントリページの*セキュリティ：すべてのクラスター*ビューと、ストレージVMインベントリページの*セキュリティ：すべてのストレージVM*ビューに表示されます。

これらの設定を編集できるのは、管理者ロールのユーザだけです。

お客様のONTAPクラスター、ストレージVM、ボリュームのセキュリティ基準は、"NetApp ONTAP 9セキュリティ設定ガイド"で定義されている推奨事項に照らして評価されます。ダッシュボードのセキュリティパネルとセキュリティページには、クラスター、ストレージVM、およびボリュームのデフォルトのセキュリティ準拠ステータスが表示されます。セキュリティ違反が発生したクラスターおよびストレージVMに対しては、セキュリティイベントが生成され、管理アクションが有効になります。

## セキュリティ設定のカスタマイズ

ONTAP環境に応じてコンプライアンス監視の設定をカスタマイズするには、次の手順を実行します。

手順

1. *一般 > 機能設定 > セキュリティダッシュボード > カスタマイズ*をクリックします。*セキュリティダッ

シュボード設定のカスタマイズ*ポップアップが表示されます。

> 有効または無効にしたセキュリティ コンプライアンス パラメータは、[クラスタ]ページと[Storage VM]ページのデフォルトのセキュリティ ビュー、レポート、およびスケジュール済みレポートに直接影響します。これらのページからExcelレポートをアップロードしたあとにセキュリティ パラメータを変更した場合、ダウンロードしたExcelレポートに誤った情報が含まれることがあります。

2. ONTAPクラスタのカスタム設定を有効または無効にするには、*Cluster*の下にある必要な一般設定を選択します。クラスタコンプライアンスをカスタマイズするオプションの詳細については、"クラスタ コンプライアンスのカテゴリ"を参照してください。
3. ストレージVMのカスタム設定を有効または無効にするには、*ストレージVM*の下にある必要な一般設定を選択してください。ストレージVMのコンプライアンスをカスタマイズするためのオプションについては、"Storage VMのコンプライアンス カテゴリ"を参照してください。

### AutoSupportと認証設定のカスタマイズ

*AutoSupport設定*セクションでは、ONTAPからAutoSupportメッセージを送信するためにHTTPSトランスポートを使用するかどうかを指定できます。

*認証設定*セクションから、デフォルトのONTAP管理者ユーザーに対してUnified Managerアラートが生成されるように有効にできます。

---

# Active IQ Unified Manager でのスクリプトのアップロードの有効化および無効化

スクリプトをUnified Managerにアップロードして実行する機能は、デフォルトで有効になっています。セキュリティ上の理由からこの操作を禁止したい場合は、この機能を無効にすることができます。

開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、**General** > **Feature Settings** をクリックします。
2. 『機能設定』ページで、以下のいずれかのオプションを選択して、スクリプト機能を無効または有効にします。

| 状況 | 操作 |
| --- | --- |
| スクリプトを無効にする | 「スクリプトアップロード」パネルで、スライダーボタンを左に移動します。 |
| スクリプトを有効にする | 「スクリプトアップロード」パネルで、スライダーボタンを右に移動します。 |

# Active IQ Unified Manager にログインバナーを追加する

ログイン バナーを追加して、システムへのアクセスを許可されているユーザや利用条件などの情報をログインとログアウトの際に表示することができます。

このログイン バナーのポップアップは、ストレージのオペレータや管理者などのすべてのユーザに対して、ログイン、ログアウト、セッション タイムアウトの際に表示されます。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。